

# 米大統領選と反知性主義

米大統領選の共和党指名争いを席巻するドナルド・トランプ氏は、「反知性主義」の旗手と言われる。派手なスタイル、女性やイスラム教徒への野卑な発言だけでなく、聖書の節を口にできないなど、確かに米国主流派の常識に欠いている。

しかし名門大学で経営学を学び、不動産ビジネスで成功したほか、人気テレビ番組を持つ実力を見ると、「愚鈍」とはほど遠い。むしろ「頭の回転の速さ」「才気」を感じさせる人物だ。

注目すべきは、米政治では「反知性」とは「反権威」を指すということである。そしてしばしば「反知性、反権威」の政治家が政治を活性化し、国の行方を変えてきたという歴史

# 問題解決策 指名への鍵

## 核心 評論

## 権威と闘う象徴 トランプ氏

だ。

昨年話題を呼んだ書籍「反知性主義」を出版した森本あんり国際基督教大教授によると、米社会の「反知性」とは、「知識や知性への嫌悪ではなく、それが権力と結びついて永続的支配になることへの反発」だという。

王も貴族もない新大陸に人々が移住して建国した米国で、権威といえば知識を武器に権力を握り続ける政治家や宗教指導者だった。このため欧州における王政への民衆の挑戦は、米国では知識階級への挑戦となった。

反知性主義の代表的大統領のジャクソン（1829〜37年）は教育も受けずに兵士からのたたき上げだが、大衆を選挙に動員して近代的な民主主義を確立し、政治を建国の父たちの「専有物」から解放した。

近年では映画俳優から政治に転じたレーガン大統領（1981〜89年）が反知性主義として位置付けられる。米国をリベラルから保守に変革し、無謀とも言える軍拡路線で、冷

戦を勝利に導いたと評価されている。ブッシュ大統領（息子）も反知性主義者と呼ばれたが、対テロ戦争の失政に突っ込んでいった。

成功も失敗もあつた反知性主義政治家たちだが、彼らの興隆には理由がある。格差や権威の腐敗が頂点に達し、その是正が通常の政治では難しい、と思われる時だ。アメリカン・ドリームが幻想に墮せば、反権威は燃えさかる。

反知性主義は権威を否定する「平等主義」を意味するから、国民には魅力的だ。加えて人々を魅了する宣伝力が必要だ。

今の米国は格差拡大による中産階級の消失など社会のひずみは限界に達している。米国民が抱える空洞感から生まれる「もつと良い方法がどこかにあるはずだ」という権威への反発は、トランプ氏の追い風だ。

反知性主義は、狭い世界観でしばしば原理主義的な独善に陥る。それを回避するには、誰に対してでも説得力ある問題解決の処方箋が必要になる。彼のリベラルな経済・社会保障政策にも少し磨きがかかれば、大統領候補としてまさにあなどれない。（共同通信編集委員 杉田弘毅）